Top Message

ごあいさつ

中長期経営ビジョン「KOBELCO VISION “G”」で掲げたグループ像を目指し、新しい価値の創造とグローバルな成長を目指してまいります。

代表取締役社長

佐藤廣士

当期のご報告

株主の皆様には、ますますご清栄のことと拝察申しあげます。

まず、当社グループの第157期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)における取組みならびに連結業績についてご報告申しあげます。

当期のわが国経済は、国内外における景気対策の発動や在庫調整の進展、海外経済の改善を背景に、持ち直しに転じました。また、海外においても同様に、中国で景気は回復したほか、米国や欧州においても夏場以降本格的ではないものの持ち直しに転じました。

しかしながら、平成20年秋からの景気の大幅な落ち込みの影響が、当期の前半にまで波及したことから、上半期が好調であった前期と比べると、全体的には低い水準にとどまりました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、鉄鋼関連事業の鋼材やアルミ･銅関連事業を中心に、第2四半期以降、販売数量は回復したものの、当期の数量は、年度前半まで極めて高水準に推移した前期の水準には届きませんでした。

この結果、当期の売上高は、前期に比べ5,062億円減収の1兆6,710億円となり、営業利益は、総コストの改善活動に注力したものの、前期に比べ709億円減益の460億円、経常利益は、前期に比べ506億円減益の102億円となりました。また、多額の特別損失の計上や繰延税金資産の取崩しを行なった前期と比べると、当期純損益は、377億円改善し、63億円の利益となりました。

当期の配当について

当期の配当につきましては、中間配当を見送らせていただきましたが、期末配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくという基本方針に基づき、回復基調にある業績などを勘案し、1株につき1円50銭とさせていただきます。事情をご賢察のうえ、何卒ご理解を賜わりますようお願い申しあげます。

当期の取組み

当社グループは、当期においても、常に地球温暖化問題への貢献を念頭におきつつ、「オンリーワン」と「ものづくり力」をキーワードに国内外で事業競争力を強化し、持続的成長を追求することに取り組んでまいりました。

当社グループが注力しているMIDREX®（ミドレックス）法による還元鉄プラントの分野で大型案件の受注があったほか、次世代製鉄法の分野では、米国ミネソタ州に建設した新製鉄法「ITmk3®（アイティ・マークスリー）」の商業第1号プラントが本年1月に生産を開始しました。また、3月にはベトナムにおいて、年産240万トン規模のITmk3®プラントを建設するプロジェクトの事業投資ライセンスを取得し、今後、平成23年1月のプラント建設開始を目指して詳細企業化調査を実施する予定です。

自動車軽量化ニーズの高まりに対して、当社は鋼材の薄板ハイテンや高強度線材、アルミパネル材などの拡販に注力しておりますが、自動車サスペンション用のアルミ鍛造部品についても、今後大幅な需要の伸びが見込まれる中国への拠点設立の検討を行ない、江蘇省蘇州市に製造・販売会社を設立することを本年4月に決定いたしました。これにより、平成24年には、日本・米国に中国を加えたアルミ鍛造部品の3極供給体制が整い、自動車メーカーの現地調達化ニーズに応えることが可能となります。

このほかにも、インドの建設機械市場に本格参入を目指し、現地に油圧ショベルの生産工場を建設することを決定し、また、需要の増加、多様化に対応すべく、中国四川省成都市にある工場の移転・拡張工事も行ないました。

国内でも、機械関連事業の主力製品である大型圧縮機の国内最大級の試運転設備の設置工事が本年2月に完了し、高砂製作所内で稼動を開始しました。この設備によって、より大型の圧縮機の試験を行なえるため、主に米国・欧州・中国・中近東の石油化学、石油精製をはじめとする各種プラントで使用される大型圧縮機の市場に本格参入することが可能となりました。

当社の技術力という面では、高い耐久性、耐震安全性が必要な東京スカイツリー（東京都墨田区に建設中の電波塔）の地上450メートル以上の部分に、当社の国内最高強度の厚鋼板を使用した鋼管が採用されたことも一例として挙げられます。

今後の取組みについて

当社グループを取り巻く中長期の事業環境は、基本的には、少子高齢化、製造業の国外移転などを背景に、国内需要は総じて減少し、新興国を中心に海外の需要が伸長するという構図が予想されます。さらに、地球温暖化ガス問題が世界的に深刻になるにつれ、国内の操業制約や、原子力発電の拡大、自動車のハイブリッド化や電気自動車の普及など、低炭素社会に向けて、需要構造が急速に変化していくものと見通しております。

■中長期経営ビジョン「KOBELCO VISION “G”」について

このような環境認識のもと、本年4月、当社グループは「中長期経営ビジョン『KOBELCO VISION“G”』～新しい価値の創造とグローバルな成長を目指して～」を策定いたしました。このビジョンでは、多様な素材系、機械系のビジネスで培った神戸製鋼グループならではの知識・技術を更に融合することにより、

- グローバル市場において存在感のある企業グループ
- 安定収益体質と強固な財務基盤を備え持つ企業グループ
- 株主・取引先・従業員・社会と共栄する企業グループ

の3つを5年～10年後の神戸製鋼グループ像として目指すことといたしました。また、このビジョンでのキーワードになるグローバル（Global）、グループ（Group）、成長（Growth）の頭文字をキャッチフレーズに掲げました。

このようなグループ像に向けて、まず、安全・コンプライアンスへの取組みを徹底し、その上で、以下の基本方針を掲げ、新しい価値の創造とグローバルな成長を目指してまいります。

■オンリーワンの徹底的な追求

オンリーワン製品･技術･サービスについて、既存のものは、市場での地位向上、採算向上に継続して注力するとともに、新たなオンリーワンの創出を追求してまいります。

加えて、当社グループならではのサービス、すなわち、事業としてのアフターサービスはもちろんのこと、変化する顧客のニーズを常に発掘･捕捉し、より良い製品･技術として反映することにより、顧客満足度を向上させてまいります。

また、顧客･社会の志向と歩調を合わせ、既存ビジネスにとどまらず、その更に川下の領域や、次世代製鉄法のような川上の領域にも事業展開することを積極的に追求し、付加価値を飛躍的に向上させることも狙ってまいります。

■ものづくり力の更なる強化

「ものづくり」とは、企業理念である「信頼される技術、製品、サービスを提供します」を実践するための「営業･マーケティング～開発･設計～調達～製造･生産」を連続体として考えるトータルの活動です。また、「ものづくり力」とは成長のための「エンジン」でもあると定義し、その強化にグループ全体で取り組んでまいります。

■成長市場への進出深化

成長する新興国市場を中心に、需要の拡大する地域･分野を追いかけ、その特性に見合った事業展開を行なってまいります。

また、オンリーワンの技術･サービスをもって、国内外の成長分野である環境･資源･エネルギー向けの取組みを加速させてまいります。

■グループ総合力の発揮

グループ内の知恵･アイデア･ノウハウを一層集積･流通させ、新たな価値を創造してまいります。

また、グループ横断プロジェクト活動による総合技術力･提案力の向上、技術融合による新たなオンリーワン創出、「KOBELCO」ブランドの定着など、グループ内に横串を通す活動を推進することにより、総合力の強化に取り組んでまいります。

加えて、事業環境が激しく変化する中、事業基盤の強化･変革を担うことのできる人材、グローバルな事業展開にも対応可能な人材を計画的に育成してまいります。

■社会への貢献

地域社会や環境保全への貢献を中心に、積極的に社会的責任を果たしていくとともに、地球温暖化問題に対しても、事業活動を通じて貢献してまいります。また、コンプライアンスに対する「感度」の高い企業風土をグループ全体で醸成してまいります。

当社は、これらの様々な取組みを通じて、持続的な企業価値の向上を目指してまいりますので、株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援とご鞭撻を賜わりますようお願い申しあげます。

平成22年6月

神戸製鋼グループ企業理念

当社グループは、下記の企業理念のもと、株主･投資家、顧客や取引先、従業員、地域社会など、あらゆるステークホルダーの皆様に対して、企業としての社会的責任を全うできるよう努力を続けることにより、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。

1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します
2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます
3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します